

令和7年度人権学習講演会

日時：令和7年10月24日（金）
午後1時30分から午後3時まで
会場：笑顔満開通り アスピラート
3階音楽ホール

【災害と人権】

演題：“助けて”と言えるまちに—災害と人権を考える

講師：特定非営利活動法人日本ファーストエイドソサエティ
代表理事

岡野谷 純 さん

人権感覚を磨く大切さは知っているつもりだったが、被災者支援においても人権目線が大切ということが理解できた。スフィア基準という言葉も初めて知ったので大変有意義な講演会であった。（参加者アンケートより）

1 災害時後の生活をイメージする

みなさんは「避難所」と聞くと、どんなイメージを思い浮かべますか。つらい、大変、プライバシーがない、トイレが足りない、物資をもらうのに並ばないといけない等、どうしてもネガティブな印象になります。では、「こうだったらいいな」と思える避難所はどんなところでしょう。清潔で安心して使えるトイレ、温かい食事が届く、子どもたちが安心して遊べる。そんな「望ましい姿」を、私たち自身が基準として持つことが大切です。この視点から出発すると、避難している方も含めて、「どうすれば実現できるだろう？」と一緒に考えるきっかけになります。避難所の運営は行政だけが担うものではありません。被災していない今だからこそ、理想の避難所の姿をみんなで考え、準備していくことが大切なのです。



2 人権を守るスフィア基準(理念)

スフィア基準とは、災害支援や人道支援で大切にすべきことをまとめた国際的な基準です。その中では、「災害時に一番守られるべきものは、生命と尊厳ある暮らしです」と示されています。災害や紛争で影響を受けた人には、「自分らしい生活続ける権利」と「必要な支援を受ける権利」があります。つまり「かわいそうだから助けてあげる」のではなく、「困ったときは我慢せず、支援を受けていい」という考え方が大切です。また、被災した人たち自身にもぜひ支援活動に参加していただきたいです。それができるような支援の形を、今から一緒につくっていけることを願っています。

3 「助けて」と言えるまちづくり

国や自治体では、避難所ガイドラインや防災マップなど、さまざまな防災資料を整えています。一度、「ここに人権の視点はきちんと入っているかな？」と見直してみてください。そして、次の災害に備えて、私たち自身は何ができるのかを考えることも大切です。我慢しなくてもいい避難所にするために何が必要か、役割分担や責任の持ち方をどうするか。「こんな生活環境にしたい」という理想の避難所や在宅避難の姿を、住民一人ひとりが思い描くことで、市と一緒に具体的な備災や環境を整えていくことができますと思います。



講演会参加者アンケートより

- ・スフィア基準は数値の話ではなく、理念のことなのだというお話が印象的でした。数字にこだわりがなじがらめになることなく臨機応変に対応する必要があると感じました。
- ・自分たちで理想の避難所を作る。理想に向かってどうしていくか考える。私たちが地域の子どもたちに行っている「かんきょう会議」と全く同じ視点でとても共感できました。突然その思考になることは難しいので日常的にこのデザイン思考ですごくのが理想だと思いました。

《感謝の言葉の部分は省略させて頂き、原文どおり掲載しています。》